

2-4-3. 第1回調査と第2回調査結果の比較

第1回調査と第2回調査結果の評点の比較を表2-4-3に示した。なお、調査地点の名称は第1回調査の地点名とし、同じ調査地点と考えられる3地点のみの比較を行った。また、表中第1回調査結果は2プロットの平均値を、第2回調査結果は3サンプルの平均値を示した。

比較の結果、調査地点Aで評点が16.0から36.7へと2倍以上に増加した。ただし、第1回調査の評点は16.0と非常に低く、常緑広葉樹林やアカマツ林などが、全国的にも高い評点を得ているのに比べ、あまりにも評点が低かった。従って、林分の遷移が進み、土壤動物相が豊かになったためかどうかは不明であり、再度調査をする。

調査地点Cでは、評点が34.0から23.7へと大きく減少した。特に地形改変などの攪乱もなく、評点が下がった原因については不明である。

また、調査地点Eでは、評点が13.0から29.3へと倍以上に増加した。これについても調査地点Aと同様に、第1回調査時の評点があまりに低いため、土壤動物相が豊かになったためとは考えにくく、再度調査をする。

表2-4-3 土壤動物評点の比較（静岡県）

調査地域	第1回		第2回	
	植生	評点	植生	評点
A 地点	アカマツ＝常緑広葉樹林	16.0	アカマツ＝常緑広葉樹林	36.7
B 地点	草地	37.0	—	—
C 地点	常緑広葉樹林	34.0	常緑広葉樹林	23.7
D 地点	落葉広葉樹灌木林	24.0	—	—
E 地点	ヒノキ壮齢人工林	13.0	ヒノキ壮齢人工林	29.3

2-5. 鳥類調査

2-5-1. 調査方法及び解析方法

第1回調査及び第2回調査の調査内容の詳細を表2-5-1に、鳥類調査区画分け図を図2-5-1①～図2-5-1③に示した。

第1回調査では、鳥類相の調査の他巣箱調査も行ったが、第2回調査では巣箱調査は行わなかったため、ここでは省略する。

鳥類相の調査では、冬季と繁殖期の2期に分けて調査を行った。第1回調査の冬季調査は4回行った。そのうち1992年の調査ではロードカウント調査と定点カウント調査によって出現する鳥類を記録した。繁殖期調査は、第1回調査で5回、第2回調査では3回行った。1993年の冬季調査と繁殖期調査では、調査地区内を川や谷などの自然境界を参考に5区画に区分し、調査地域内を無造作に歩き回って調査を実施した。調査区画の植生と景観構成要素については、表2-5-2に示した。

このように、調査回数や調査手法の違いなどから、第1回調査と第2回調査の結果を比較するのは困難であるが、確認種のリストと、種ごとの食性とサイズ構成についての傾向を比較した。比較ではまず、第2回調査の結果を記載し、その後、第1回調査結果と第2回調査結果の比較を行った。

表2-5-1 鳥類相調査の詳細（静岡県）

項目	第1回	第2回
冬季	調査回数 4回	2回
	調査日 1992.1.18, 1993.2.11, 1993.2.12, 1993.2.20	1996.12.19, 1997.10.19
繁殖期	調査回数 5回	3回
	調査日 1992.4.11, 1992.4.25, 1992.5.30, 1992.6.2, 1992.6.3	1997.4.26, 1997.6.28, 1997.7.19
調査手法	1992年度調査：ロードカウント調査と定点カウント調査（2定点）によって、出現する鳥類を記録した。なお6月2日は夜間調査を行った。 1993年度調査：調査地区内を自然境界を参考に区画分けし、調査地域内を無造作に歩き回って調査を実施した。	重点モニタリング調査地域を区画分けし、調査を行った。なお、調査区画の区分は第1回調査と同様とした。

注1：第1回調査では巣箱調査も実施されたが、第2回調査では実施されなかつたため、ここでは省略した。

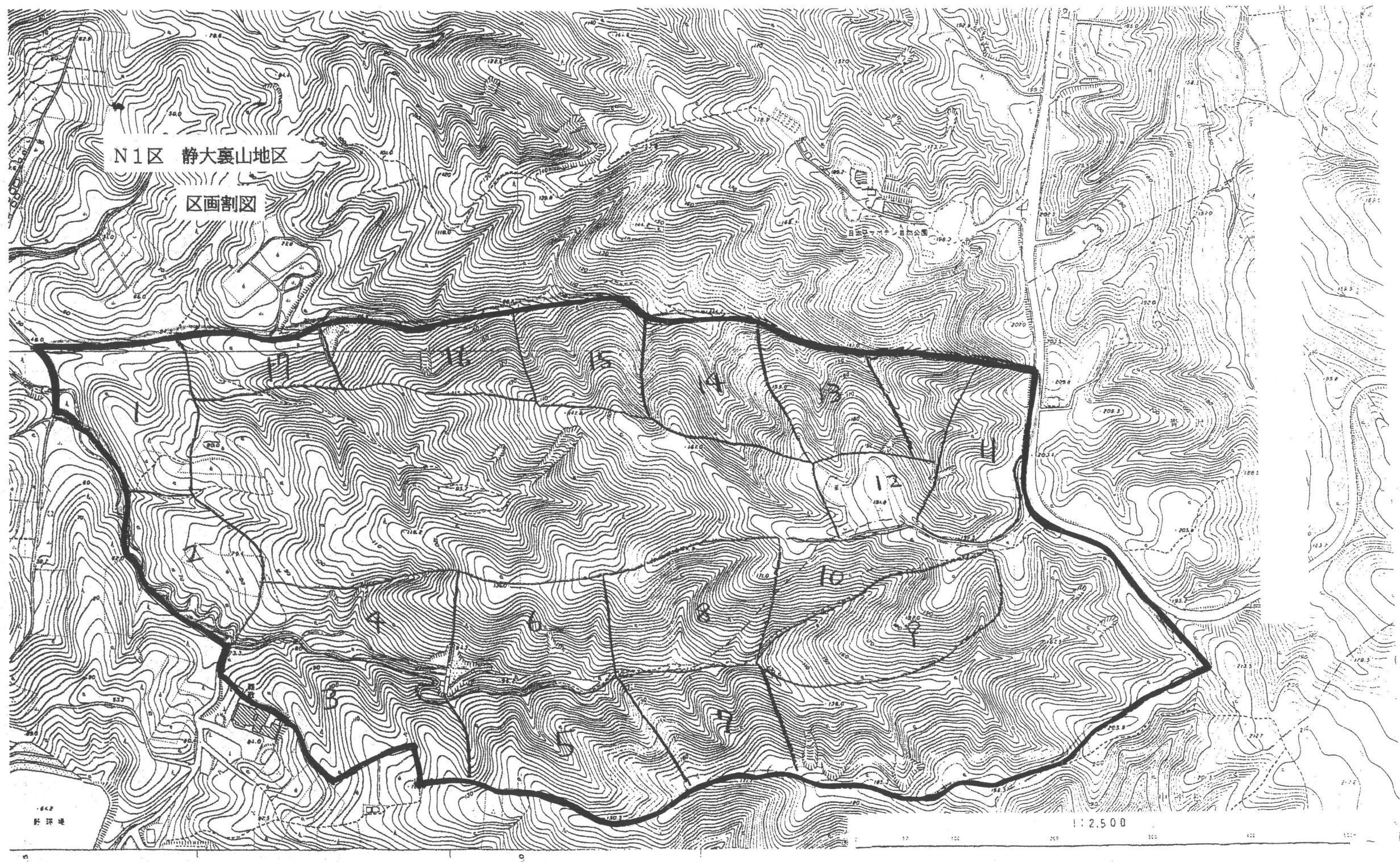


図 2-5-1① 鳥類調査区画分け図 N-1 区（第2回・静岡県）